

桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 50 号

発行日 2023.6.3

発行者 桜船会

発行責任者 木村允紀



水彩画【夕景の街並み F6】

提供 渡辺 安次郎氏（会員）

いきいきライフ：日本一周マイカーの旅

いきいきライフ：我が街の神社

いきいきライフ：人生「100年」時代とは？

いきいきライフ：花・鳥・風景・月

春の行事報告：『日比谷花壇 大船フラワーセンター』散策

表紙写真：私と透明水彩画

行事報告：行事・同好会報告

事務局：会員動向・編集後記

小山 雅志

譲原 長治

郡司 正之

清水 和崇

編集班 皆川 良司

渡辺 安次郎

富山 勝己

事務局・編集班

1969 年に入社し旧船電の製造管理部、営業部、管球製造部、そして三菱電機オスラムで退職。退職を機に人生の記念にとマイカーで行く日本一周の旅を計画。旅は秋田、高知、徳島、沖縄 4 県を残しゴール目前でコロナでの足踏み。これまでの旅は 7 回、所要 2 ヶ月、走行距離 16,500km で地球約半周です。この旅で特に印象深く、再度走りたいドライブコースを中心に観光スポットも紹介させていただきます。



先ず北から、北海道の小樽～稚内までの通称「オロロンライン」と宗谷岬～網走までの「オホーツクライン」です。何れも片側に海を見ながら広大な大自然の中を信号の無い一般道をひたすら走る正に北海道でっかいどうの旅、各々 300km の走行でした。

次に東北では十和田温泉～十和田湖までの「国道 106 号奥入瀬線」です。時は秋、溪流で有名な奥入瀬川を彩る紅葉の中、12km の短いコースですが落葉のジュウタンを舞い上げながら木漏れ日のトンネルを抜けるのんびりドライブは心安らぐ楽しいひと時でした。

紅葉の美しさと岩山を貫く山岳コースで心に残っているのは、石川県の白山市から岐阜県白川郷に抜ける通称「白山白川郷ホワイトロード」です。白山国立公園内を横切り標高 1,700m の三方岩岳の山腹を通り、最高点 1,450m 全長 33km の自動車専用道路。三方岩岳の名前の通り岩壁で構成された山々の V 字谷を上るつづら折りのコースです。車中から見る岩肌と紅葉は見事で写真愛好家を沢山見かけました。写真はフロントガラス越しで構図が悪く紅葉が少しですが、山全体の錦は徐行してしまう程の迫力です。



次は中国四国地方の通称「しまなみ海道」。ご存知の様に尾道市と今治市を結び、瀬戸内海国立公園内を走る全長約 60km の自動車専用道路。各島が 10 本の橋で結ばれ、橋から見下ろす島々が瀬戸内海に浮かんで、日本一人気のコースとされています。

最後に九州、正に雄大な阿蘇国立公園内を走る「阿蘇パノラマライン」は爽快。更に、阿蘇～大分湯布院に抜ける通称「やまなみハイウェイ」は、九重連山を見ながら海拔約 1,000m の高原の一本道をひた走る約 50km のコースです。大自然の中の一般道を、草原の風を感じながら走行する癒されドライブでした。

以上が旅での印象が深く出来れば再挑戦したいコースですが、旅行前に予定していたコースが悪天候で走行出来ず心残りの場所があります。それは石川県羽咋市の海岸線です。日本で唯一、砂浜の波打ち際を走れる観光道路「千里浜なぎさドライブウェイ」全長 8km。当日は波風が強く通行禁止で残念でした。なお、ここに紹介したコースは何れも「日本名道百選」に選ばれています。

後半はこれまでの旅の中で心に強く残っている観光スポットを紹介したいと思います。

先ず大自然の美しさでは北海道の広大な大地です。「サロベツ原野」と「釧路湿原」は何処までも広く限りがありませんでした。

続くは九州阿蘇のカルデラとそれを取り巻く外輪山。その世界有数のスケールを一望できる「大観峰」からの眺望は圧巻です。当日は好天にも恵まれ、圧倒的なその雄大さは今でも目に焼き付いて離れません。

次に文化面では城の美しさです。この旅でも 33 の城を観ましたが一押しは「熊本城」。その規模、堅固な守りに加え、二つの天守閣や石垣は壮麗です。また、函館の「五稜郭」は専用のタワーから見下ろす城郭は幾何学模様が秀麗で、日本では異色の存在です。

次いで島根県安来市「足立美術館」の日本庭園。世界的にも有名で人気がありますが手入れの行き届いた庭木の美しさは秀逸です。美術館つながりでは淡路島の「大塚国際美術館」がおすすめです。世界の名画が陶板に焼き付けてあり、その完成度は高く見事。手で触れる事も出来ます。鑑賞には一日が必要な？

今年の後期高齢者 2 年生となりました。車の運転に少し不安を感じつつも、沖縄を除く 3 県を制覇して日本一周ドライブを完了したいと思っています。

小生は 20 年間地元神社の世話人の活動を行っています。入った時は一番若く正直務まるかと不安がりましたが、いつの間にか世話人総勢 13 名の最古参になっていました。

【我が街の神社について】

名前は「小八幡八幡神社」(こやわたはちまんじんじゃ)です。この神社は歴史が古く平安時代にはあったとの説があり、九州宇佐八幡を総社とした三神一体の八幡信仰に属する一社です。この時代に 1200km も離れたこの地にどのようにして建立されたはわかりません。



神社は小さいながら本殿・天満宮・稻荷明神・道祖神・出征軍人凱旋記念碑・小田原市指定重要文化財「八幡神社の庚申塔群」等があります。庚申塔には元禄 12 年と書かれた約 300 年前の「見ざる聞かざる言わざる」の石塔があります。またこの神社は「小田原市指定保存樹林」に指定され、太い楠を始め松・イチョウ・桜・樺・藤棚等色々な樹木が多数あります。

氏子数は明治 9 年 96 戸、平成 3 年 1447 戸と順調に増えて現在 3196 戸です。

【神社の行事と活動】

年中行事は初詣・祈年祭・大祓いです。初詣以外の神事は近隣神社の宮司にお願いをしています。祝日には国旗を必ず掲揚します。大・中・小のしめ飾りも 14 か所あり、しめ縄につけるお締め(紙垂:しで)も半紙より若干大きな用紙で制作します。これも年中行事の他、自然災害で破損があれば付け替えます。

神社の敷地面積が 2000m² と広いことと樹齢 3~400 年の楠や高さ 15m 超の老木が 20 本以上あるため落ち葉の処理が大変です。特にイチョウに生る銀杏は、世話人では間に合わず地元老人会・子供会の応援を受け四苦八苦しながら対応しています。落ち葉は市指定のポリ袋に手作業で詰めて処理するため毎年 3~400 袋になります。その他本殿・鳥居等の清掃、樹木の剪定、消毒・雑草処理や年中行事に追われる日々です。毎月 1 回 3 時間程度の定例活動ですが、台風の影響などがあれば随時対応しています。

初詣では、参拝者のために甘酒を 300 人分用意します。ここ 2~3 年はコロナの影響で参拝者が少なくなると予想しましたが、甘酒が余ることもなくほぼ例年通りの参拝者でした。神頼みかは不明。

【神社のご祭礼】

ご祭礼は毎年 4 月の 2 週目の土日に実施します。小さい神社ですが大中小 3 基のお神輿があり、高さ 3m の山車で渡御します。大神輿は 800kg で約 30 名の担ぎ手と交代要員 20 名が必要です。当神社の神輿会だけでは、無理なため近隣の神輿会に協力いただいています。中小のお神輿は町内ほとんどを渡御し、大神輿・山車は限定された所を渡御します。渡御には警察への届出等が必要で 2 月から活動開始します。

ご祭礼の 1 週間前からの準備がまた大変でのぼり旗立て・ご祝儀の掲示板設置、山車の組み立て、飲物の手配等やることは山ほどあります。当日は地下足袋を履いて 20000 歩以上歩くため日々脚を鍛えています。ご祭礼が終われば後片付け、当然反省会です。しかしコロナ禍によりこの 3 年間は涙を飲んでいましたが、今年は例年通り盛大に実施できました。

【神社の運営】

小さな神社ですが税金や保険料、光熱費、維持管理費など約 250 万円が必要です。広い敷地を利用した駐車場の賃貸料と賽銭で何とかやりくりしています。

老木が多く枯枝が落下する恐れがあるため、クレーン車による剪定が必要で費用的にも大変なのが実情です。年 1 回で終わればいいのですが自然相手のため数回のこともあります。なお、市の財政が厳しいのか市指定保存樹林でも補助金は一切出ません。

【これからも頑張ります】

小生もこれから何年手伝いできるか解りませんが、随時改善を実施しています。例えばご祭礼時のご祝儀の掲示物を習字からパソコンで対応にできるようにしたり、消毒を機械化したり、年間計画表は 5W1H を活用して充実させる等努力をしています。今は毎月の定例活動やご祭礼では、小生が全ての指示を出しているため、後進の育成が重要と思いながら、我が街の神社のためまだまだ頑張っていく所存です。最後に皆さま知っての呑み助の小生を今後とも宜しく願います。



1970年4月に当時の船電に入社、2015年3月に「三菱電機照明株式会社」を退職、2022年3月に三菱電機住環境システムズ株式会社の販売関連会社である「株式会社菱和ライテック」を退職、51年間の三菱電機の照明事業を退任しました。

半世紀に渡るサラリーマン人生は、先輩・上司に恵まれ、優秀な部下にも恵まれ、また、「100年」に一度の“光源の変革（蛍光灯⇒LED）”時代に関わり、大変充実した楽しい人生でした。

また、「製造～販売」まで幅広く職務を経験できたことで、多くの人脈を築き上げたことが、なによりの宝物でした。

特に営業時代には販売促進の「いざ鎌倉キャンペーン」を復活させ、多くの電材店の方々と交流を深められました。キャンペーンの優秀電材店とは、多くの御礼「海外ツアー旅行」を行い、楽しい思い出になっています。なかでも、「北京オリンピック」の野球“星野 JAPAN”応援ツアーは最高でした。

三菱電機の照明事業を顧みると、ドイツ「オスラム社」の存在が大きく寄与していると思っています。平成元年に旧船電から分社化して、蛍光灯事業はオスラム社との J/V（合弁事業）で HH ライン（高速横型製造ライン）に巨額投資を行い、蛍光灯事業を伸ばし、照明器具事業を牽引してきたと認識しています。

菱和ライテックでの販売前線の業務では、蛍光灯ディラーの方々とのお付き合いもあり、毎年のタイ・パタヤゴルフツアーは楽しい思い出です。



2016年 タイ・パタヤ
LPGA コース サイアム CC オールドコース

◇最近の状況

2022年4月より、菱和ライテック時代に関係していた会社より依頼され、電気工事会社、照明器具製造会社2社の「顧問」業務を行っています。以下にその2社をご紹介します。



◆ 株式会社美鷹（電気工事）

- ・電気工事（弱電・強電）、情報通信工事（CATV）、太陽光パネル据付工事、リフォーム工事など多角的に工事している工事会社。
- ・三菱電機ビルソリューション（株）、三菱電機システムサービス（株）などお付き合いがあります。
- ・最近では「ファッションセンターしまむら」の照明リニューアルを全国的に実施しています。

◆ テス・ライティング株式会社（照明器具製造）

- ・器具は間接照明、什器棚下灯、テーブル照明など三菱電機照明では、ほとんど取扱わない器具を中心に製造販売しています。
- ・顧客は店舗内装設計、什器メーカー、照明専門メーカーなどが中心です。



2023年3月 JapanShop 展示会東京ビックサイト

◇照明に対する想い

最近の車のヘッドライトを見ると、丸から直線へ更に細くなって来ています。LEDの特徴がデザインに生かされてきています。照明器具も従来の形からLEDが持っている特徴に合わせて変化しつつあります。この波に乗り遅れないよう頑張っていきます。まだまだ現役で頑張ります。

皆様も体調を維持管理して頑張ってください。

1975年に旧船電に入社し、その後三菱電機照明株式会社に移り65歳でリタイアしました。その間に蛍光灯用電子安定器の開発と最後の10年間はVA事務局担当として、継続して照明事業に係る職務に携わって来ました。サンデー毎日の生活になって間もなく5年になります。



60歳で嘱託になった頃は、特に趣味と言える物は無く、今後増える自由時間を使う趣味を持つことを考えた時に①写真撮影②ギター演奏の2つが浮かびました。写真撮影は以前から運動のために鎌倉市内や湘南・三浦地区を自転車で回ったり、箱根や丹沢等の近場の山に登ったりしていて、その折にデジカメで風景等を撮影するのが好きでしたので、これを機に趣味にしようと考えました。またギターは独身時代に弾いていたのですが、結婚と共に中断していたのを再開しようと思立ちました。

写真撮影は六十の手習いですが、65歳まではフルタイムで働いていて休日しか撮影に行けない等でなかなか上手くならず、本格的な取組はリタイアしてからになりましたが、撮影テクニックはカメラに関する本を読んで勉強しておりました。

撮影対象は初めの頃は風景や乗物（飛行機、船、列車）等が中心でしたが、最近では野鳥や花等も多く撮るようになりました。これはコロナ禍で人の集まる場所に行くことや公共交通機関での移動がしづらくなったなかで、近場で人の密集しない撮影場所を見つけたからです。

主な野鳥撮影場所は、柏尾川の住友電工傍に氾濫対策として設けられた金井遊水地です。冬場は鴨類が多く飛来し、翡翠（ヒスイ：カワセミの異称）は年中見ることができます。ここにはバードウォッチングや野鳥撮影の方も多く来ています。野鳥の撮影は地（水）上や樹上にいる時を写していたのですが、飛翔する姿も写真に収めたいと思うようになり、翡翠をターゲットにチャレンジし始めた所です。野鳥の撮影を始めてからは撮った鳥の名前や特徴等を図鑑で調べたりして徐々に野鳥の知識も増えてきました。

また花の撮影は、大船フラワーセンターが近くにあることからここが中心です。この1年は週1回通っています。65歳以上は年間パスポートが千円で購

入でき、シーズン時以外は来客者もそんなに多くないので落ち着いて撮影できます。1年間通っているうちに花や木についての知識も段々と増えて来て、温室の中の珍しい熱帯植物等にも馴染んで来ました。偶然にもこの原稿の執筆中に今年春の行事を大船フラワーセンターで実施するとの通知が届きました。

写真撮影は外での活動なのでリフレッシュでき気持ち良いのですが、撮影地までの移動や現地で撮影して回る時の歩く時間が意外と短く、運動量がさほど多くないのが残念です。



花：春の小湊鉄道



鳥：翡翠



風景：稲村ヶ崎夕景



月：皆既月食

一方ギター演奏は数十年ぶりの再開で一から始めるようなものでした。昔はフォークソングが好きでギターの弾き語りをしていたのですが、結婚して止めてからはもっぱらカラオケで歌うだけでしたので、今はギターと歌の両方で音楽を楽しめるようになりました。ギターは家族や近所の迷惑にならずに夜も弾けるようにとヘッドホンを使うサイレントギターにしました。弾く曲は昔のフォークソングやポップスですが、最近はクラシックの曲にも挑戦しています。クラシックは難しそうと敬遠していたのですが、やり始めると面白く、また指を動かす練習になり、以前より指がよく動くようになった気がします。

コロナ禍で3年にわたり自粛生活を余儀なくされて来ました。ようやく出口が見えてきて、今年は船電回路懇親会（昔の回路設計のメンバー10余名と年2回旧交を温めていました）の再開やこの桜船会の行事が再開されたので皆さんとまた会えることを楽しみにしています。

- 1) 実施内容：『大船フラワーセンター』散策
- 2) 実施日：2023年3月22日（水）
- 3) 会費：ご家族とも無料
- 4) 参加者：32名（内ご家族4名）
- 5) コース：大船駅11時集合～徒歩で大船フラワーセンターへ11：30到着
- 6) お弁当：大船軒『4種詰合せ押し寿司』
- 7) 天候：暑いくらいの晴天
- 8) 大船フラワーセンター散策報告：

3月の役員会時点では、当日は雨の予報となっていたので心配しましたが、当日は晴れて日差しがたっぷりの暑いくらいの天候に恵まれました。屋外ですが食事以外は、移動中も含めてマスクをしてコロナの感染防止に努めました。

11時の集合時間には久しぶりにお会いできた懐かしい方々が揃いました。申込は40名でしたが直前で8名の方が欠席で32名となりました。歩き始めて直ぐの駅連絡デッキから大船観音が青空にくっきり見えました。安全を祈願して観音様に見送られてまとまっの移動としました。しかし早い

方ゆっくりの方といろいろでしたので先頭から長く伸びた列になりました。歩く順路は、下見の通り交通量が少ない道でした。歩き疲れたところで着く直前の歩道橋が難関でした。暑かったので入園すると直ぐ日陰のベンチで疲れを癒している方々もいました。

入園後まず、花時計の前で3年ぶりにマスクなしで集合写真を撮ることができました。その時何方からかWBC（World Baseball Classic）で日本が優勝したことが伝えられて皆さん拍手でお祝いしました。

休憩所で木村会長からご挨拶の後、お弁当とお茶を配りました。レストハウスや休憩所の日陰で知合い同士で座り美味しくいただきました。

食後はそれぞれ園内を自由に散策して自由解散となりました。桜はまだちらほらでした。

筆者はもう10年以上ここにきていなかったのですが、管理が日比谷花壇に代わって何年か経ちましたが入口や園内各所が変わっていないなどの印象を受けました。

久しぶりに青空の下で対面による楽しいひと時をゆっくりと過ごすことができました。



大船フラワーセンターの花時計前にて



大船観音



駅連絡デッキ



フラワーセンター入口



大船駅集合風景



フラワーセンターに向って



フラワーセンターに向って



フラワーセンター入園手続き



木村会長ご挨拶



ご挨拶拝聴



ご挨拶拝聴



レストハウス前で昼食



休憩所で昼食



休憩所で昼食



レストハウス前で昼食



役員の最後の打合せ



昼食と昼食後の休憩風景



表紙に掲載した絵はヨーロッパの街並みを描いた水彩画で大きさ F6 (42*33cm)です。続いて私の絵との出会いについて話してみたいと思います。

私は 2007 年に定年退職しました。沢山の時間をどのように過ごそうかと誰もが一度は考える事です。私の場合は 30 歳の頃からテニスを趣味にしていたので、何かやるのであれば反対の



「静の趣味」が良いと思いました。そんな時 NHK の趣味悠々「水彩で描くにつぼんスケッチ紀行」が目に入りました。テレビ番組「プレバト」の水彩画講評で有名な「野村重存氏」が講師となり水彩画を学ぶ講座です。元々絵を描きたいと思っていましたのでこの番組に飛びつきました。3ヶ月間の講座を受けてもう少し本格的に習いたいと思い藤沢市民ギャラリーに通い自分が好きな画風のサークルを探しました。

その中で辻堂公民館を拠点として活動している「湘南水彩サークル」に入会する事に決めました。毎週土曜日 9 時から 3 時までの教室です。実物の花や野菜等の静物画、写真等の風景画、鎌倉・横浜へ出かけてのスケッチによる風景画を描きます。描いた後は全員で先生による講評で終わる活動です。

在職中、生産技術課に勤務していたので現場の状態をスケッチする事は多く、立体を平面的に書くのは慣れていました。絵を描く方でも鉛筆でのデッサンはまあまあでしたが、いざ色を塗ると酷い事になっていました。その絵に先生の筆が入ると見違えるようになりました。サークルでの絵の制作や画家の模写等、今でも絵画活動を続けています。

私の好きな画家に「醍醐芳晴」という人がいます。一度この画家の展示会に行ったことがあり、実際のデモンストレーションを見ました。水彩画は、水彩紙を立てて描くと絵の具が流れ余計な所に色がついてしまうので、普通は水平にして描きます。この画家は油絵のように立てて描き、流れた絵の具を筆でコントロールして水彩画特有のぼかしや滲みを出します。パレット上で色を混ぜるのではなく水彩紙上で混色して微妙な色にしています。今でも上手く出来ませんが私もこの方法で描いています。

水彩画は安価な趣味です。大きな初期費用はかからずスケッチブック、絵の具などのランニングコストも安価であり、時間があり金がない私には適した趣味です。人生 100 年、体力を必要としない水彩画を永く続けたいと思います。

■行事関連報告

総会から秋の懇親会までコロナ禍のため中止となりましたが、2019 年 3 月のアサヒビール神奈川工場見学以来となる春の行事『大船フラワーセンター』散策を 3 月 22 日(水)に開催できました。

■ハイキング同好会報告

1) 昨年 12 月 23 日(金)に 7 名の参加で北鎌倉から源氏山公園に登り、銭洗弁天と佐助稲荷、長谷寺を経由して鎌倉駅まで歩きました。



2) 3 月 3 日(金)5 名で国府津駅から梅の花を見ながら蜜柑山に登り、見晴らし台で丹沢から箱根、伊豆の山並みと相模湾を眺めて国府津駅に戻りました。

■会員動向 (敬称略) (2022.10.1~2023.3.31)

- ・会員数：193 名 (前回ご報告から 2 名減員)
 - ・入会者：0 名
 - ・退会者：1 名 三浦 鉄郎
 - ・物故会員：1 名 金子 博
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記

桜船会だよりは、諸先輩方々によって継続して発刊していただいたこと、コロナ禍でも執筆者のご協力を得て休刊することなく続けられたことで第 50 号を発刊することができました。今後も発刊を継続していきます。皆様には対面で実施する総会・バス旅行・懇親会などの行事を通じて、寄稿を依頼いたしませんので、是非寄稿へのご協力をお願いいたします。

■桜船会 URL <http://www.ousenkai2013.com/>

編集責任者：皆川良司
編集委員：橋本栄次
印刷所：(株)さんこうどう

